

## ご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事  
TAKENAKA SINGAPORE PTE LTD  
Managing Director  
結城 勇



シンガポール日本商工会議所の皆様、竹中シンガポールの結城 勇と申します。

当地には昨年の4月に赴任し、今年の1月より理事を、また4月からは建設・不動産部会の部会長を併せて務めさせて頂いております。少し遅ればせながらではありますがこの場をお借りして一言ご挨拶を申し上げます。

まず当地での弊社の歩みを紹介させて頂きますと業務開始は1974年、まさに本年50周年という大きな節目を迎えております。マウントエリザベス病院・チャンギ空港第一ターミナルといった国家的なプロジェクトへの参画を皮切りに空港関連は継続的に、商業施設・オフィスビル・娯楽施設・歴史的建造物の保存再・大型先端生産施設等 多岐にわたる分野でシンボリックな実績を残して参りました。

この50年の間 幾度か組織の変遷がありましたが現在当地には東南アジア地域（7か国）を統括するアジア統括部現地法人の2つの組織が駐在し活動しており、私現地法人の代表を努めております。個人的な経歴を申し上げますと、この度の赴任はまだ1年半ほどではありますが、私のシンガポール赴任はこれが3回目 合計9年ほどとなります。最初の赴任は27年前、1997年に遡ります。マリナベイにベイサンズは影も形もなく、マーライオンも世界三大がっかりの一つと呼ばれ、めったに水を吐くことのないミニマーライオンの時代でした。罰則がきびしいが治安は良く街はきれい。利便性は良く生活しやすい国であったことは確かですが、まだまだ発展途上色は色濃く残っておりました。建設工事においても安全意識は低く、竹や丸太による足場が多用されていたり、現場に来た作業員が裸足であったり、着任当初は驚きの連続でした。最初に携わったのはチャンギ空港第1ターミナルの増築工事でしたが、建設業が地場産業であること再認識し、日本での自分の仕事が優秀な職人さんたちの力で成り立っていたことに気づき、日本の常識が通じない世界の中で様々な壁にぶつかりながら、物の見方・考え方が大きく変わったことを鮮明に記憶しています。その後いくつか

のプロジェクトに携わり、マレーシアKLを經由して2004年に帰国。

2度目の赴任は2012年、伊東豊雄先生の基本設計による超高層ビルプロジェクトへのオンプロジェクトでの赴任でした。屋上に巨大な赤い花が載っているビルと言う思い当たる方もいるかもしれません。約10年ぶりのシンガポールにはマリナベイサンズがそびえ立ち、F1や右ハンドルのランボルギーニが走り回り、一人当たりのGDPも日本を抜き去った、そんな時代になっていました。その様な中、担当したこのプロジェクトでは、シンガポール初採用となる技術を日本より大々的に取り入れ、市街地の中心、軟弱地盤+大深度地下+超高層+超短工という大変厳しい条件克服し、BCA Excellence Award 受賞他 内外共に高い評価を受ける事が出来ました。そしてGNP抜かれながらも日本の意地を見せつけるというミッションを完了して日本へ帰国したのが2015年。

その後3度目があるとは思ってもせず日本のプロジェクトを担当しておりましたが、まさかの3度目が昨年4月、シンガポール代表としての赴任となり現在に至ります。この様にシンガポールの国の歴史の半分近くの期間を、日本との行ったり来たりではありましたが、建設業を通して体感して参りました。

現在はローカル会社の技術力も向上し、中国勢の猛威にさらされ建設市場の環境は厳しくなる一方ですが、最良の作品を世に残し、社会に貢献するという弊社の変わらぬ理念のもとシンガポールにおいて更なる発展・社会貢献を果たすべく全力を尽くしておるところであります。

JCCIでの活動におきましても、建設・不動産部会の皆様との交流、また異業種の方々との交流を通し活動することでシンガポールへの社会貢献、日本企業のプレゼンス向上の為に微力ながらもお役に立てればと考えております。

最後になりますが、会員企業の皆様、事務局の皆様、並びにご家族の皆様の益々のご健勝・ご発展を祈念してご挨拶とさせていただきます。